お茶の水女子大学附属学校園での実践を基にした
実践事例報告

1．実践した学校園：埼玉県立熊谷西高等学校

2．実践した教科等：高校日本史Ｂ

3．基にした学校園：お茶の水女子大学附属高校

4．基にした実践名：「日本史Ａ」で培う「資料活用の技能」ー探究的な学習と教科の学習をつなげる試みー」
　お茶の水女子大学附属高等学校（2018）『研究紀要』６３，pp.91-.104 より］

5．実践の概要

３年文系日本史選択(4 単位)２クラス 48 名対象に、自習課題として実施。論文に例示された考査問題のうち、「知識・資料」１問、「知識・資料・思考」２問を実施。後者のうち、①国民所得倍増計画の実現可能性を問う問題は、論文で例示された誤答Ａ・Ｂ・Ｃを提示し、それぞれ正誤判断をさせ、誤と判断した場合は理由を説明させる形式に改変した。②高度経済期の新しい価値観を問う問題は、自由記述式のままで実施した。

問２　「1960 年に発表された国民所得倍増計画の発表当時、どの程度実現の可能性があったのか」という疑問に対して書かれた（あ）～（う）の意見の正誤をそれぞれ判断し、正しければ「正」に〇をつけ、誤っていれば「誤」に〇をつけてどこが誤っているか簡単に説明しなさい。

（あ）池田勇人内閣の時代は、他の区域と比べて急激な低下を見られないことから、実現可能性はあった。

（い）経済成長率が 1960 年から 70 年の間、ずっと 4%以上で、日本は大きく経済成長しているため、実現の可能性はあった。

（う）神武景気から毎年約 1.5%程の経済成長率があることから、10 年あれば所得倍増は出来る可能性はあった。

あ	正 or 誤	62年不況が起こったため急激に下がっている。
い	正 or 誤	
う	正 or 誤	

問３　図１・２から読み取れる情報を用いて、高度経済成長期に生じた新しい価値観について説明しなさい。

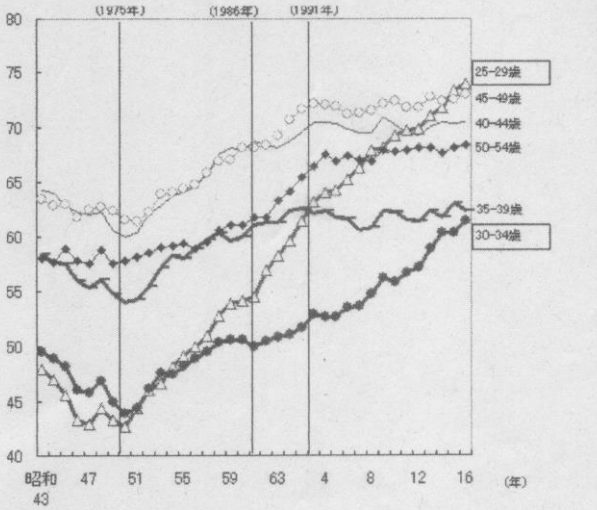

図２　年齢階級別女性の労働力率推移（昭和 43～平成 16 年）

景気が良かった高度経済成長期中は女性の社会進出はあまり進まなかったが、高度経済成長が終わり景気が悪くなったことによってだんだんと女性の働くんの割合が上がってきた。

6. 実践してみた感想

①のＡ・Ｂでは、誤りの理由として「62 年に不況が起きたから」とあるように、1960 年の時点で考えるという条件が完全に無視され、後世からの評価に終始していた。Ｃでは「1.5%では目標が達成できない」「9%程度」など、誤りを指摘できた者もいた。②では、やはりグラフと無関係の情報で説明したり、女性の就労についてのみ書く者が多く、２つのグラフを関連づけて説明できた者は極少数にとどまった。

受験直前期ということも関係したのか、全体的に問題の要求に正対しない既習知識の羅列にとどまり、思考力という点からは残念な結果となった。次年度以降は反省を活かし、協調的な取り組みなどを交えながら、資料活用技能の育成を図っていきたい。